

一年で最も寒い日が続くと言われる2月。ひんやりとした空気を肌で感じ、吐く息の白さを楽しみながら、寒い日も元気に遊ぶ子どもたちの姿にたくましさを感じます。乾燥が気になる時期になりましたので、冬の感染症に気をつけながらこの時期ならではの遊びや楽しみを見つけ、元気に過ごしていきたいと思えます。

『はつか大根を収穫』

【こじか組】



一生懸命に育てたはつか大根は、赤くて綺麗な色に育っていました。収穫したり、洗ったりして、サラダにして美味しく食べました。

『縄跳び大会の様子』

【こぐま・こあら組】



みんなの前で縄跳びの練習の成果を発表しました。メダルももらいました。

『戸外遊び楽しいね』

【うさぎ組】

【こりす組】

【ひよこ組】



今山の階段を登ろう！



誘導ロープで歩きます。



鉄棒にぶらーん！

【お礼】

☆お忙しい中、保育参観へのご参加ありがとうございました。これからもご家庭の皆様と子どもたちの成長を共に喜び、支え合っていきたいと思えます。

【お知らせ】

☆3月3日(月)に集合写真撮影を予定しています。9:30までに登園をお願いします。

☆3月8日(土)に卒園式を予定しています。【参加者】こじか組(卒園児)・保護者・職員
詳細は後日お知らせします。





子どものイヤイヤ そんな時どうする？

子育ての中で「自分でする」「イヤだ」など成長を感じながらも、子どものペースに乱される苦勞があると思います。今回は、子どもにダメと言わずに試してみる方法をご紹介します。

1

イヤイヤ発生条件を除去

○子どもが不快に感じる条件をなるべく除去し、気が散りそうなものが目に入らないように隠しましょう。

(例)



着脱しやすい服を用意する
好きな服を複数用意する
着てほしくない服は隠す

2

グズる予定は先に伝える

○子どもが嫌がりそうならアラームを一緒に設定するなど「もうすぐ終わりだよ」と見通しが持てるよう伝えましょう。

(例)

「あと5分で遊びはおしまいね。
終わったら着替えよう。」



3

子どもの感情を言語化

○「まだ遊びたいよね」「悔しいよね」など、今感じている不快な気持ちはこういう名前なんだよと言葉で伝えるとモヤモヤが落ち着きます。指示だけでなく、まずは気持ちを受け止めましょう。

(例)



「もっと遊びたいよね。ブロックで遊ぶの好きだもんね。ママ(パパ)ももっと作りたい。」

4

行動が楽しくなる仕掛けを

○どちらがいいか選んでもらったり、行う場所を自分で決めてもらったりすると、やらされている感がなく進んで取り組む気持ちに。ゲームや競争、キャラクターの声真似で誘うなどエンタメ感も取り入れてみましょう。

(例)



「よーいどんでお着替えするよ。
60 数える間にお着替えできるかな？よーいどん！」

5

「できたね」と成功体験へ

○えらい・スゴいという言葉を使わなくても「△△できてスッキリしたね」「ありがとう」「おかげで助かったよ」と達成感を味わえるように言葉にして、ポジティブな成功体験を重ねましょう。

(例)

「あっという間に着替えられたね。
自分で手が出せた。やったね。」



子どもが泣き止まない時は…泣くのをやめなさいは逆効果。

無理に泣き止ませる必要はありません。「嫌だったね」「悔しかったね」など感情に名前を付けて言語化してあげましょう。気持ちを受け止めてもらうことが、落ち着ききっかけとなります。そして涙を拭くなどの対処法を伝え鏡のある場所へ移動し気分転換をさせます。自分の姿を見ることで、冷静さを取り戻すことがありますよ。

子どもとのコミュニケーションを大切に、家族で協力しながら子育てが出来るといいですね。